

## 地域の危険度マップ

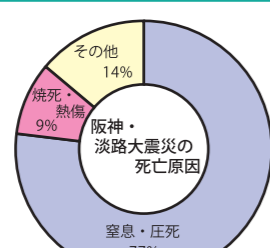
地域の危険度マップは、地震の揺れによる建物被害発生危険度分布を相対的に示したもので、「揺れやすさマップ」の揺れによって建物が全壊すると予想される割合を「危険度」として表示したものです。

### ● 恐ろしい家屋の倒壊

地震による死亡やケガの原因で最も多いのは、家屋の倒壊や家具の転倒による「窒息・圧死」であり、阪神・淡路大震災での死者の約8割を占めていました。



木造建物被害の例（平成19年7月新潟県中越沖地震）



『阪神・淡路大震災調査報告 総集編』阪神・淡路大震災調査報告編集委員会（2000）、「厚生省大臣官房統計情報部「人口動態統計からみた阪神・淡路大震災による死亡の状況」（1995.12）より作成

皆さんの生命・財産を守るためには、  
住宅・建築物の耐震化が極めて重要です。

### ● 地域の危険度マップで建物被害発生危険度分布を把握

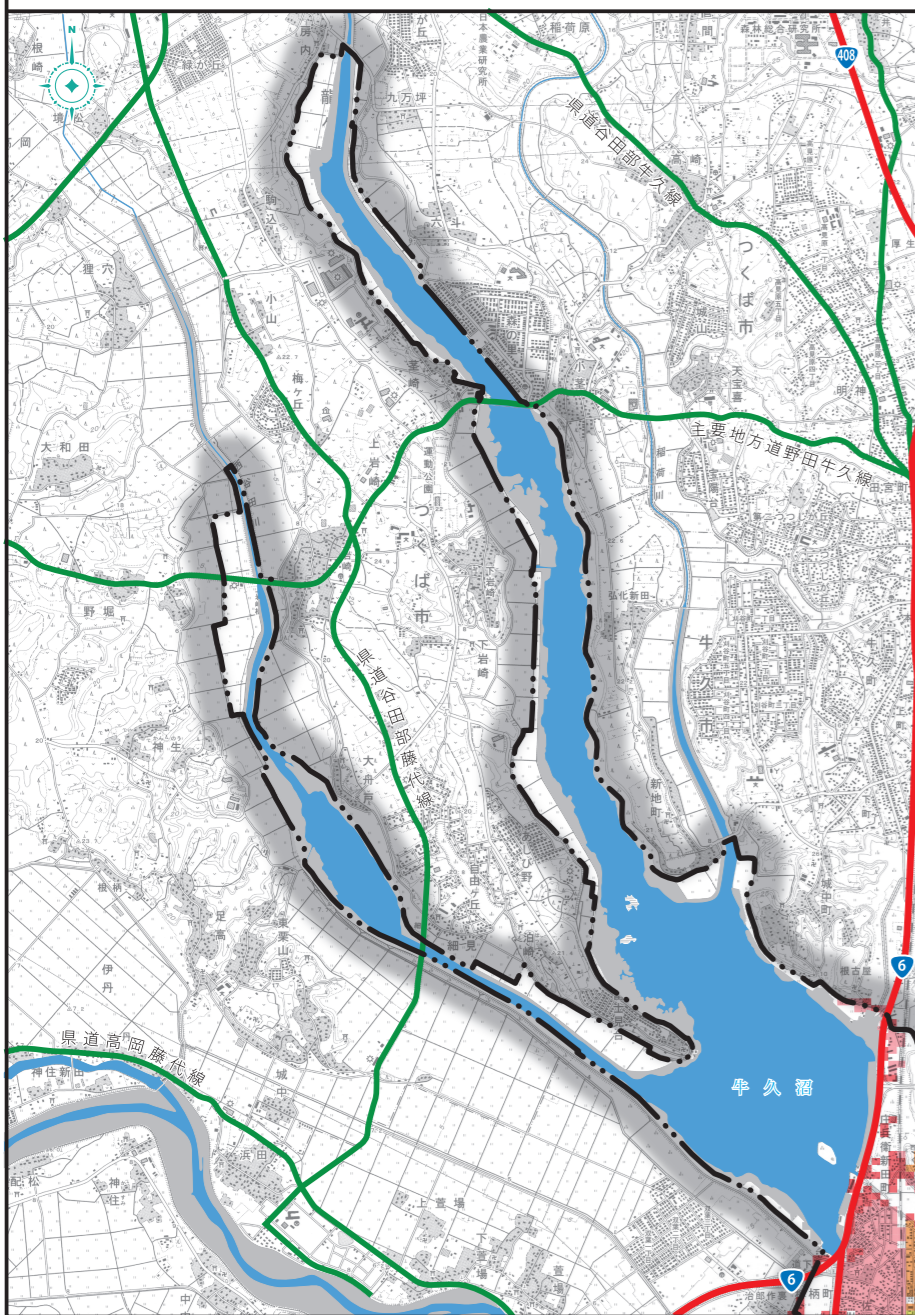
「地域の危険度マップ」は、町丁目や大字ごとに分布する建物の建築年代や構造を集計し、その割合と50mメッシュ単位の揺れやすさをもとに全壊<sup>※</sup>すると予想される建物の割合を表示したものです。危険度の数値が大きくなるほど地域の建物を受ける被害が大きくなります。

揺れやすさマップ  
＜地域の揺れやすさ＞  
メッシュごとの揺れやすさ

地域の危険度マップ  
＜建物被害の危険度＞  
メッシュごとの建物が全壊<sup>※</sup>すると  
予想される割合

町丁目や大字ごとに  
建築年代や構造を考慮した建物分布

※全壊：住居が居住のための基本的機能を喪失したもの  
・住宅の全体、もしくは一部の階が全て倒壊している場合  
・外壁や柱の傾斜が1/20以上である場合



### ● 地震に備えた建物の耐震化

ご自宅の耐震性について確認してみましょう。

- ① 建てたのは昭和56年(1981年)5月以前である。
- ② 過去に浸水、火災、車の突入事故などに見舞われたことがある。
- ③ 壁や基礎にひび割れがある、傾いているのがわかるなど老朽化している。
- ④ 建物の平面の形状や、偏って大きな窓があるなど耐震性に関わる問題がある。

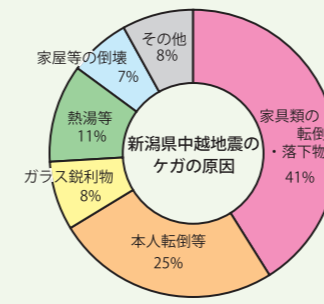
一つでも当てはまれば、建築士等に相談してみましょう。

本市では、①に該当する木造住宅に対して、耐震診断費・耐震改修費の一部補助を実施しています。補助についての詳細は、龍ヶ崎市役所都市環境部都市計画課までお問い合わせください。

お問合せ先 龍ヶ崎市 都市環境部 都市計画課  
電話0297-64-1111(代表) E-mail: toshikei@city.ryugasaki.ibaraki.jp

### ● 家具や家電製品の地震対策も忘れずに

住宅の倒壊を免れても、タンスなどの家具が転倒、テレビや電子レンジが飛び、ガラスが砕け散るなど、何気ないものが一瞬にして凶器になります。新潟県中越地震によるケガの原因の4割以上が家具類の転倒・落下物といわれています。また、ケガをすることで避難行動に大きな支障がでることがあります。



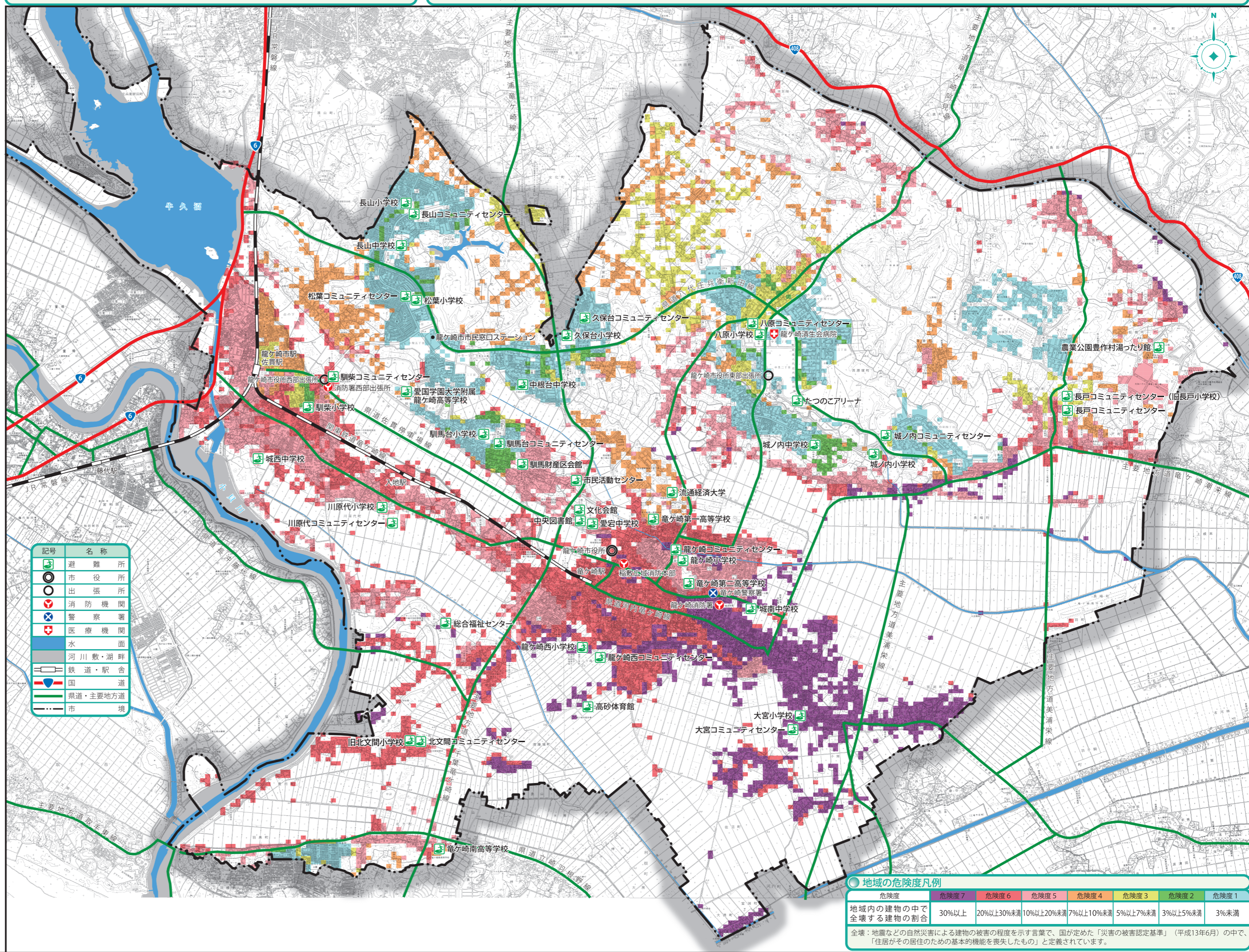
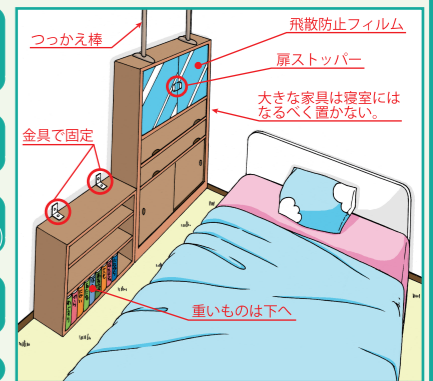
『新潟県中越地震における人的被害に関する現地調査結果』東京都消防庁(2004)より作成



『阪神・淡路大震災展示写真』より

家具の配置や転倒防止対策をチェックしましょう。

- ① 寝室や食事を摂る場所や避難経路になる場所に、大きな家電や家具はなるべく置かない。(家具の配置の工夫)
- ② 収納は重いものを下へ、軽いものを上に入れる。(家具転倒の軽減)
- ③ 大型の家電や家具は、転倒防止器具で固定する。(固定方法は、固定器具の説明書をよく確認する。)
- ④ 食器や本などは、中のものが飛び出さないようロックをつける。
- ⑤ ガラスには飛散防止のフィルムを貼る。



### ● 地域の危険度凡例

危険度	危険度7	危険度6	危険度5	危険度4	危険度3	危険度2	危険度1
地域内の建物の中で全壊する建物の割合	30%以上	20%以上30%未満	10%以上20%未満	7%以上10%未満	5%以上7%未満	3%以上5%未満	3%未満

全壊：地震などの自然災害による建物の被害の程度を示す言葉で、国が定めた「災害の被害認定基準」（平成13年6月）の中で、「住居がその居住のための基本的機能を喪失したもの」と定義されています。